

ふれあい 曾山医院

志筑1391-9
Tel:62-5566

2019年11月号
(第123号)

発行人
曾山 信彦



編集委員会



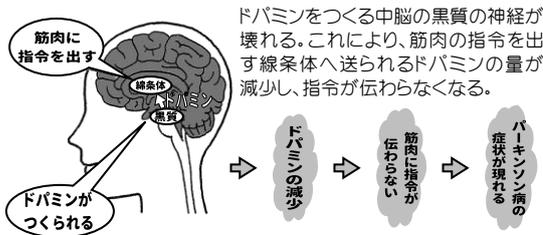
谷岡・棟近
西岡・福井
隅田・太田
山内・廣岡

パーキンソン病とその治療

パーキンソン病は、さまざまな運動障害が現れる病気です。脳から各部分への指令は神経伝達物質という物質が神経細胞を通じて流れる事で伝えられています。脳の中で神経伝達物質のドパミンが不足することで、指令が上手く伝わらなくなる病気です。

パーキンソン病の四大症状は①手足のふるえ、②筋肉のこわばり、③動作が遅くなり、④体のバランスが悪く倒れやすくなる

パーキンソン病が起こる仕組み



という症状です。他には、便秘、低血圧、立ちくらみ、頻尿、嚥下障害などの症状もあります。進行すると自由に体を動かせなくなり、早急に発見して治療に取り組めば、病気をコントロールし元気で日常生活を送る事が出来るようになってきます。薬を正しく使いながら、体を動かすリハビリテーションを行う事で病状を遅らせる事ができます。

① 主な治療薬(3種類)

・レボドパ
減少したドパミンを補充する薬で、効果が現れやすい。使用期間が長くなると、体が勝手に動く不随意運動が現れることがある。
・ドパミン受容体作動薬
ドパミンの代わりに線条体にあるドパミン受容体を刺激することで、症状を改善させる。副作用として、眠気やむくみ、衝動性調節障害、幻覚、妄想などが起こることがある。
・MAO-B阻害薬
ドパミンを分解するモノアミン酸化酵素の働きを抑え、ドパミンが減少しないようにする。症状の軽い場合に使うと、レボドパの使用

を開始を遅らせることにつながる。とされている。

② リハビリテーション

パーキンソン病によって出現する症状が緩和され、生活の質を維持・向上することが出来ます。周囲の段差や物がない場所で行うなど、ケガしないように十分注意し体の状態に合わせて毎日続ける事が重要です。例えば、①体力維持のための有酸素運動、②筋肉と関節の柔軟性維持のための運動、③筋力維持のための運動、④姿勢や歩行の改善と苦手になりやすい動作の練習、⑤呼吸訓練があります。介護を行うご家族が出来る事で一番大切な



のは、患者さんが上手に病気と付き合っていく環境を作ることです。ただし、家族だけで支えようとすると精神的、身体的負担が非常に大きくなります。ヘルパーやデイケアなど必要な介護サービスを活用しましょう。また、自立した生活を送るためには、衣食住の工夫も大切です。衣類は着脱しやすい物にし、前開き、大きい目のボタンやマジックテープ、ウェストゴムの付いた衣類を選びます。立ったまま着替えをするとバランスを崩す事があるので座って行いましょう。

食事は水分や食べ物を誤嚥しやすいので調理の際、舌でつぶせる程度の固さで小さく切つて、とろみのついた料理で飲み込みやすくします。握りやすいスプーン、フォークなどの自助具や食器を工夫してみましょう。住まいは運動機能を維持するためにも安全で動きやすい住宅環境にするといいいでしょう。パーキンソン病は難病指定になっています。気になる症状がある場合には是非主治医にご相談下さい。(看護師 大島 とき子)